

中小企業の社長さま、経営陣すべてに贈る…

# WAVE出版の『社長という病』 逆境からも希望が生まれる1冊

WAVE出版

日本には、自営業含め400万人以上の「社長」がいる。玉越直人社長も、一人で創業してから31年、佐々木常夫著『働く君に贈る25の言葉』、鳥原隆志著『インバケット思考』などのロングセラーのほか、ビジネス書・社会・文芸・実用・児童書を発行するWAVE出版（千代田区九段南03・3261・3713）を経営してきた。その中で、「社長という職業は、人生そのもの」、すべての社長には、信頼する社員や家族にも言えない悩み、苦しみがあることを痛感したという。売上不振・資金繰り・後継者難といった重責や不安、恐れがのしかかり、お客様、取引先、社員、家族、周りに対する自らの責任を思う。それは、誠実に生きる小さな会社の社長さん

に共通する「孤独という病」である。今年2月刊行の『社長という病』は、そんな社長さんたち皆の抱える病への処方箋を示したものだ。著者の富樫康明氏は、全国で一世を風靡したフード・カフェ「イタリアン・トマト」事業の立役者として、

大成からの大転落を経験した。その死線を乗り越えて再生を果たした富樫氏が、何故重度の「社長という病」を克服できたのか。絶望の淵にありながらも、人にやさしく、希望を捨てずに真摯に働き続ける社長さんたちの姿から、「絶望と希望は表裏一体」と気づいたのだ。失敗を繰り返しても、辛く嫌な想いをしても再び立ち上がり、どんなに過酷な状況下でも自尊心を持ち、社員や取引先にやさしい。「そんな小さな背中こそ、『社長という厳しく孤独な人生を歩む者』特有の雄姿である」と玉越社長は語る。そして「孤独という病」を越え「社長という喜び」が日本中へ広がることを夢見て、この書籍を編集・発売した。

WAVE出版がこうした想いを詰め込んだ1冊1冊をぜひ皆様の手に取っていただきたい。



WAVE出版を率いている玉越社長



社長としての実体験が共感を呼ぶ『社長という病』